

第1学年8組 外国語科（英語コミュニケーションⅠ）学習指導案

令和4年11月8日（火）第7校時 1-8教室 指導者 三尾健一

1 単元名

題 材 LANDMARK English Communication I（啓林館）Lesson 8 Part 4

- 2 単元の目標**「内容のまとめり:将来の職業選択や自分のキャリアプランについての考えを深める。」
 将来どのような社会問題を解決したいか、また自分のキャリアプランについて考えていることを互いに伝え合うやり取りを続ける。

3 単元の評価規準<五つの領域>

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
話すこと (やりとり)		教師からの評価発問に対して文中の内容を捉え、さらに自己に関連づけて自分の考えを深めていける。	将来の解決したい社会問題について、また自分のキャリアプランについて考えていることを互いに相手に伝え合うやり取りができる。
書くこと		教師からの評価発問に対して文中の内容を捉え、さらに自己に関連づけて考えを深めて表現できる。	
読むこと	文章を読み、部分否定や知覚動詞を使用した表現、目的を表す表現の意味と構造を理解する。	社会起業家についての情報を読み取り、長文読解の実践的なスキルを活用し、本文の概要を把握することができる。	

4 指導上の立場

○単元観

本単元は、ある社会起業家が、他国で教育改善に向けて取り組んだ活動について述べられている。現地の若者が将来の社会的意義を感じとりながら、健全な勤労観や職業観を養う内容である。

○生徒観

本学級の生徒は、英語学習に対する関心は比較的高いが、全体的にはややおとなしい面がみられる。そのため、生徒同士でのコミュニケーションの場を多く用意し、教師による一方向の授業ではなく、教師と生徒の双方向の授業を行うよう努める。

○指導観

トピックに関する評価発問を行うことで、生徒に自分自身の勤労観や職業観を深めさせる。またペアワークにおいて、自分の感じたことや考えを表現できる場面を設定する。

5 指導と評価の計画（全6時間）（○…記録に残す評価）

時	ねらい（■），言語活動等（丸数字）	知	思	態	備考
1 3	Part1～3 ■他国の教育の現状を把握し、e-educationによって解決へと導く過程を通して、考えを互いに伝え合うやり取りを続ける。 ①数種類の音読練習で音声情報・文字情報を脳で捉える。 ②英文概要把握から日本語要約を通じて内容理解をする。 ③精読を行い、正しい英語の活用をおさえる。	○	○	○	まとめ①②活動へのscaffolding(足場組立)
4 (本時)	Part4 ■他国の教育の現状を把握し、作者のメッセージに込められた思いを基に、自分の職業観を深める。 ①英文概要把握から日本語要約を通じて内容理解をする。 ②精読を行い、正しい英語の活用をおさえる。 ③次々回のまとめ活動②のscaffolding(足場組立)として評価発問に答える。		○	○	まとめ①②活動へのscaffolding(足場組立)
5	まとめ① 小テスト,listening, comprehension, paraphrase	○	○		
6	まとめ②小テスト,speaking, writing,		○	○	

6 本時案（第4時）

(1) 本時の目標

- 知識、技能： seem to, so that～can の構文の使い方，英単語が適切に理解できる。
- 思考、判断、表現： Bangladesh の教育の概要を把握し要約ができ，自分の考えや感じたことを整理し，表現できる。
- 主体的に学習に取り組む態度：相手に配慮しながら，積極的にコミュニケーションをとることができる。

(2) 展 開

学習活動	教師の指導・支援	評価規準及び評価方法
(生徒の立場) 0 本時の目標を確認する。(1)	(指導者の立場) 本時のねらいを伝える。	
<p>目標: Bangladesh の教育の概要を把握し，自分の職業観を深められるようになる。</p> <p>授業中に課せられた task を制限時間内に，意欲的にやり遂げるようにする。</p>		
1 Listeningをし,内容確認のQをペアで解答し合う。(3)	テキストの内容に関する質問を確認し，後半の「メッセージ」に関する部分を傾聴するよう促す。	ペアでの活動に積極的に取り組もうとする意欲がある。 (主体的に学習に取り組む態度) <観察>
<p>深い学び, II 論理的思考力の育成</p>		
2 Summaryをする。(12)	本文の概要を確認させる。事前課題として，初見の段階での着眼点を示す。	本文において，段落ごとに主題を把握できるようになる。
3 単語練習,Slash readingの後,pepperを行う。(6)	チャンクで意味を捉えることを意識させ，有機的な音読になるようにさせる。(リズム，テンポ)	(知識・技能) <冊子，ワークシート>
<p>対話的学び, III コミュニケーション力</p>		
4 Shadowingをする。(3)	文ごとに意味を捉えることを意識させ，音声情報と文字情報を脳内で変換できるように音読させる。(紐付け)	
5 overlappingをしながら,指定されたスライドでQ&Aを行う。本文の内容を確認しDictationをする。(12)	未知語に気を取られすぎず，段落内でのパラフレーズの箇所気づくように導く。指定したスライドでQ&Aを行わせる。本文中のso that構文やseem構文を押さえる。本文の英語を正しく理解できたかを確認させる。	ワークシートの内容確認で正しく理解することができる。(知識・技能) <ワークシート>
<p>主体的学び→自己に関連づけること, 深い学び→俯瞰, I 情報分析活用力</p>		
6 本時の振り返りを含めミワ氏のメッセージに対して自分の将来について考えを深める(8)	自己に関連づけ，深い学びを促せるように本時のポイントを確認し，次々回のまとめ表現活動への足場組み立てをする。 「振り返り→言語化→再現性」により，学習の定着が図れたかを反芻させる。(授業中要所でも随時)	教師からの評価発問に対して文中の内容を捉え，さらに自己に関連づけて考えを深めている。(思考・判断・表現) <観察>
<p>まとめ：自分の職業観を深められるきっかけになる。</p>		

◎「おおむね満足できる」状況 (B) と判断する生徒の姿の例

主体的に英語を用いて，ペアとコミュニケーションをとることができる。本文の内容の要約ができ，自分なりに将来の展望，職業観を深めようとしている。

(3) 準備物

ワークシート，説明用スライド，授業冊子